

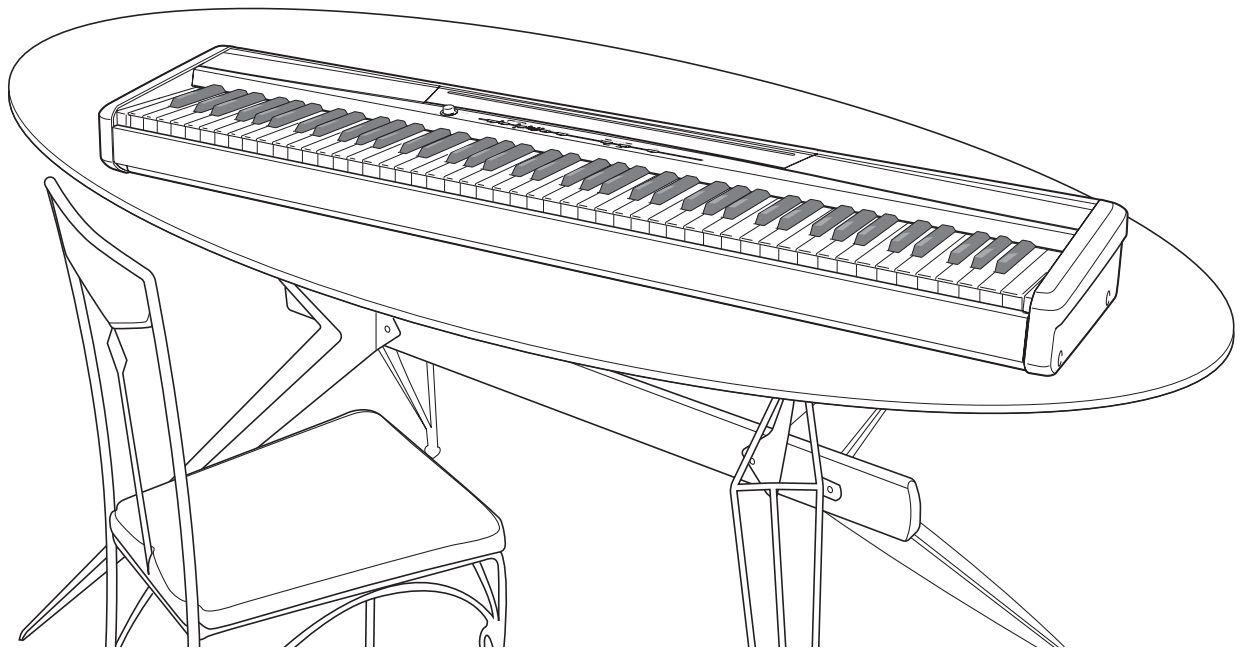
Privia PX-120

取扱説明書（保証書別添）

この取扱説明書は、お読みになったあとも、
保証書とともに、大切に保管してください。

「安全上のご注意」

ご使用前に、添付別紙「安全上のご注意」を
お読みの上、正しくお使いください。





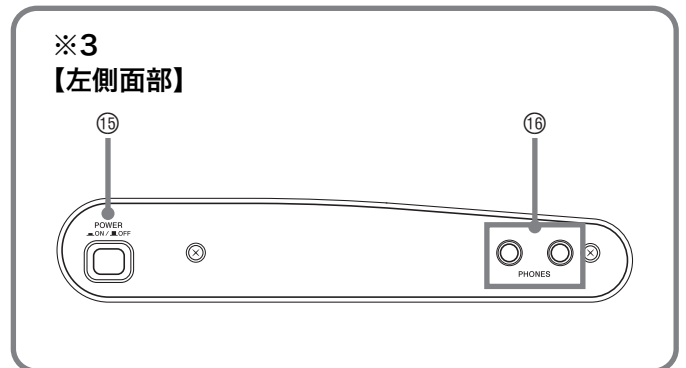
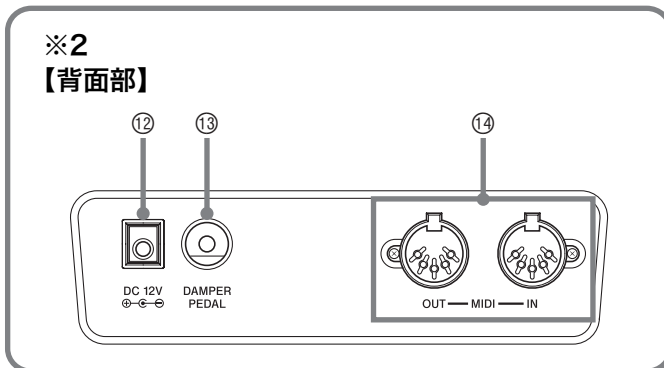
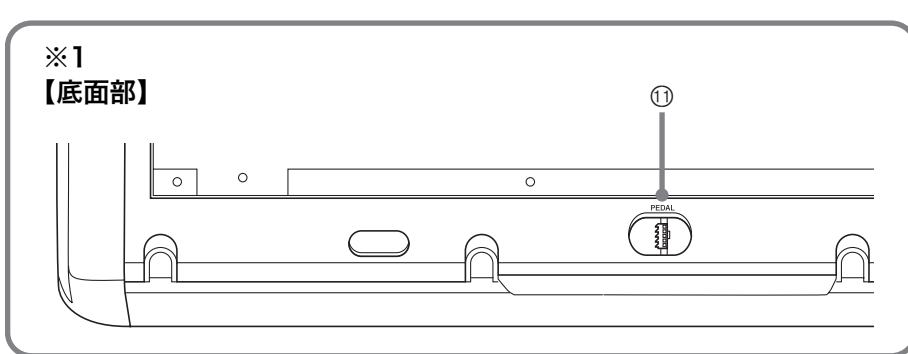
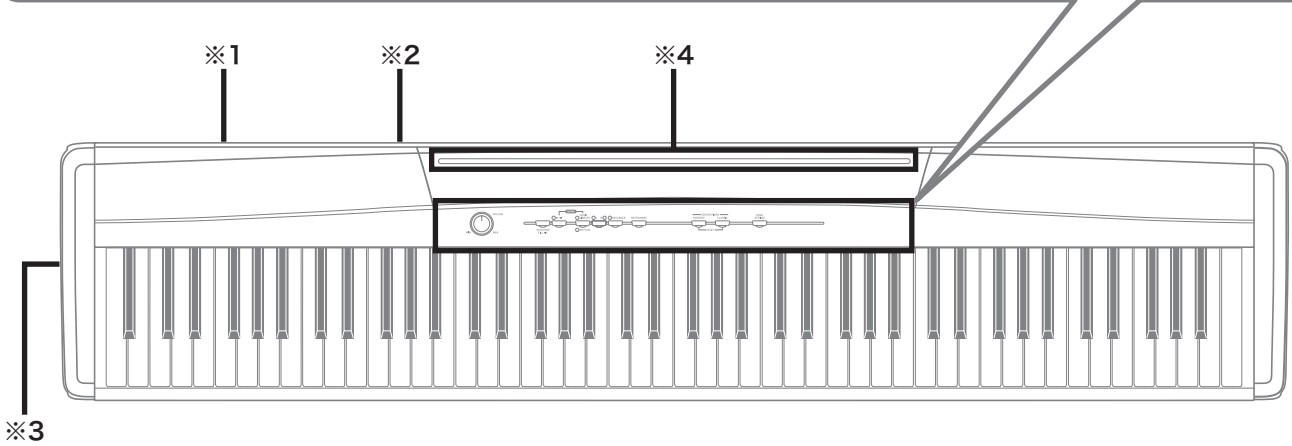
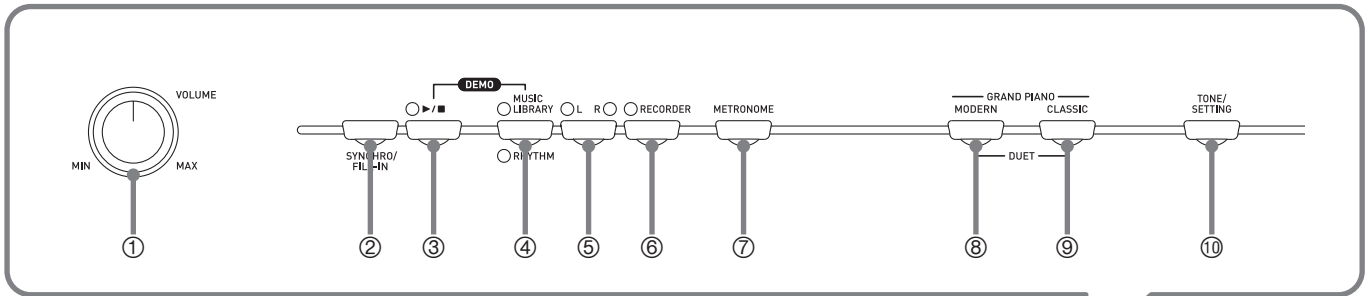
このマークはEU諸国における
リサイクル規制のマークです。

本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

目次

各部の名称	2	その他の設定	22
譜面立ての立て方.....	2	設定するには.....	22
TONE/SETTING ボタンについて.....	3	設定に使用する鍵盤一覧.....	23
設定の保存と、操作のロックについて.....	3	設定項目一覧表.....	24
電源について	4	音色選択.....	24
ACアダプターの使い方.....	4	ブリリアンス (BRILLIANCE).....	24
接続について	5	リバーブ (REVERB).....	24
ヘッドホンを接続するには.....	5	コーラス (CHORUS).....	24
オーディオ機器やアンプと接続するには.....	5	曲/リズム選択 (SONG/RHYTHM SELECT).....	24
ペダルを接続するには.....	6	テンポ (TEMPO).....	24
付属品・別売品について.....	6	メトロノームの拍子 (METRONOME BEAT).....	24
いろいろな音色を 聴いてみましょう	7	曲/伴奏の音量.....	24
音色を選んで弾いてみる.....	7	メトロノームの音量.....	24
音色の明るさを調節するには (ブリリアンス).....	8	自動伴奏のモード (MODE).....	24
2つの音色を重ねてみる (レイヤー).....	9	鍵盤のタッチ (TOUCH RESPONSE).....	25
音色に効果をかけてみる (エフェクト).....	9	鍵盤の調 (トランスポーズ) (TRANPOSE).....	25
メトロノームを鳴らしてみる.....	10	音程の調整 (チューニング) (TUNING).....	25
2台ピアノにして弾いてみる (デュエット).....	11	送信チャンネル.....	25
曲を聴いてみる (デモ演奏/ ミュージックライブラリー)	12	ローカルコントロール.....	25
デモ演奏を聴いてみる.....	12	操作音.....	25
ミュージックライブラリーの曲を 1曲ずつ聴いてみる.....	12	設定の保存.....	25
ミュージックライブラリーの曲を 練習してみる.....	13	操作のロック.....	25
リズムを鳴らしてみる	14	MIDI機能を使ってみる.....	26
リズムを選ぶ.....	14	資料	27
自動伴奏を使ってみる.....	15	困ったときは.....	27
演奏を録音/再生してみる (録音機能)	18	製品仕様.....	28
トラックについて.....	18	トーンリスト.....	29
演奏を録音してみる.....	19	リズムリスト.....	29
録音した演奏を再生してみる.....	20	ソングリスト.....	29
録音した内容を消去するには.....	21	フィンガードコード一覧表.....	30
		ご使用上の注意.....	31
		保証・アフターサービスについて.....	31
		MIDI インプリメンテーション・ チャート	

各部の名称



メモ

- マーク右の数字は、参照ページです。
- 各部の名称は、本書の説明文中で太字で記載されます。

- ① ^{ボリューム}**VOLUME**つまみ ⑤, 7
- ② ^{シンクロ/フィルイン}**SYNCHRO/FILL-IN**ボタン ⑮
- ③ ▶/■ボタン ⑩, 12, 13, 14, 15, 19, 20
- ④ ^{ミュージックライブラリー}**MUSIC LIBRARY**, ^{リズム}**RHYTHM**ボタン
⑮, 14
- ⑤ ^{左手/右手}**LR** ボタン ⑮, 19, 20, 21
- ⑥ ^{レコーダー}**RECORDER**ボタン ⑮, 18, 19, 20, 21
- ⑦ ^{メトロノーム}**METRONOME**ボタン ⑩
- ⑧ ^{グランドピアノ}**GRAND PIANO (MODERN)** ボタン
⑮, 7, 9, 11
- ⑨ ^{グランドピアノ}**GRAND PIANO (CLASSIC)** ボタン
⑮, 7, 9, 11

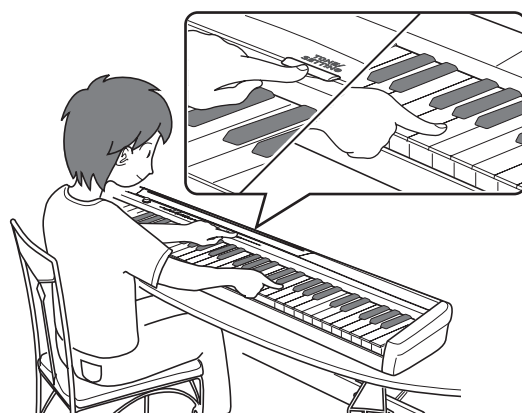
- ⑩ ^{トーン/セッティング}**TONE/SETTING**ボタン
⑮, 3, 8, 9, 10, 12, 14, 15, 22
- ⑪ ペダルコネクター ⑮
- ⑫ 電源端子 (DC 12V) ⑮
- ⑬ ^{ダンパー}**DAMPER PEDAL**端子 ⑮
- ⑭ ^{ミディ}**MIDI OUT/IN**端子 ⑮
- ⑮ ^{パワー}**POWER**ボタン ⑮
- ⑯ ^{ホン}**PHONES**端子 ⑮

TONE/SETTINGボタンについて

本機では、TONE/SETTINGボタンを使って様々な設定を行います。操作の流れとポイントを、ここでつかんでおきましょう。

- TONE/SETTINGボタンは、これを押しながら、設定項目が割り当てられている鍵盤を押す、という使い方をします。鍵盤を押して設定を行うと、お知らせのための操作音が鳴ります。

例：8ページの「鍵盤を使って音色を選ぶには」



- 詳しい操作方法や設定できる内容については、22ページ「その他の設定」を参照してください。

設定の保存と、操作のロックについて

本機では、各種設定の内容を電源を切った後も保存したり、ボタンをロックして誤操作を防ぐこともできます。詳しくは24ページの「設定項目一覧表」を参照してください。

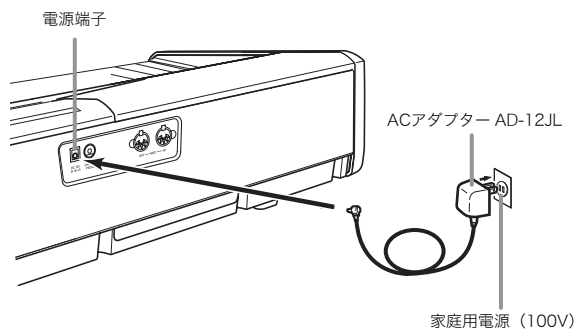
電源について

本機は、電源として家庭用電源を使用します。
ご使用後は、必ず電源を切ってください。

ACアダプターの使い方

本機指定のACアダプターを接続してください。
本機指定ACアダプターの型式：AD-12JL

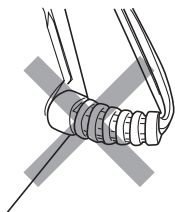
【背面部】



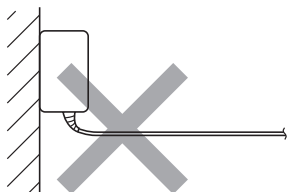
コード部の断線防止のため、次の点にご注意ください。

<使用時>

- コードを強く引っ張らない
- コードを繰り返し引っ張らない
- コードの根元部分を折り曲げない



- コードをピンと張った状態で使用しない

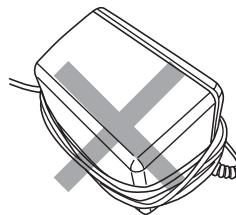


<移動時>

- 本体を移動させる場合は、必ずACアダプター本体をコンセントから外す

<保管時>

- コードは図のようにACアダプター本体に巻き付けず、束ねてまとめる



重要!

- ACアダプター本体を抜き差しするときは、必ず電源を切ってから行ってください。
- ACアダプターは長時間ご使用になりますと、若干熱を持ちますが、故障ではありません。

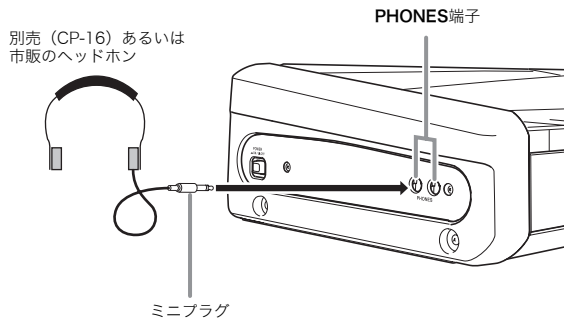
接続について

重要!

- 接続の際は、本機の**VOLUME**つまみを（接続する機器側にも音量調節があればそちらも）絞っておき、接続後、適切な音量に調節してください。

ヘッドホンを接続するには

【左側面部】



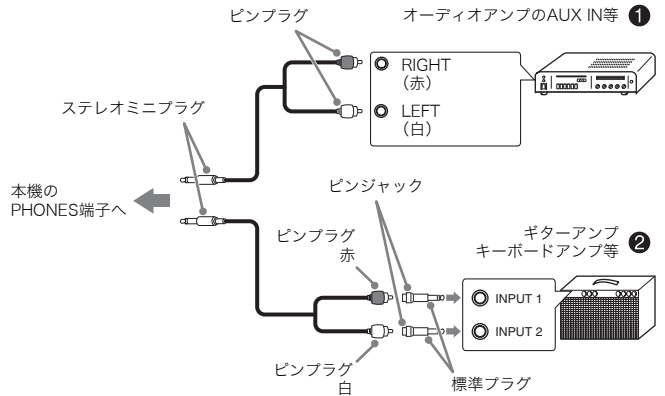
別売（CP-16）あるいは市販のヘッドホン**PHONES**端子に接続します。本機のスピーカーからは音が出なくなり、夜間なども周囲に気がねなく演奏が楽しめます。なお、耳の保護のために音量を上げすぎないようにご注意ください。

メモ

- ヘッドホンのプラグは**PHONES**端子に根元までしっかり差し込んで下さい。プラグが根元まで挿入されていないと、ヘッドホンの片側からしか音が出ない場合があります。

オーディオ機器やアンプと接続するには

オーディオ機器や楽器用アンプと接続すれば、それらの機器のスピーカーの能力に応じた、より迫力のある音量や音質で、演奏を楽しめます。



オーディオ機器と接続するには (図①)

市販の接続コード（ミニプラグ×1、ピンプラグ×2）で図①のように接続します。その際、片側（本機につなぐ側）がステレオミニプラグのものをご利用ください。（モノラルプラグでは、ステレオ出力の片側分の音しか出ません。）通常はオーディオ機器のインプットセクターを、接続した端子（AUX IN等）に切り替えます。音量は本機の**VOLUME**つまみでも調節できます。

楽器用アンプと接続するには (図②)

相手側の機器に応じて、市販の接続コード※で図②のように接続してください。

音量は本機の**VOLUME**つまみでも調節できます。

- ※ 本機につなぐ側：ステレオミニプラグのもの
アンプにつなぐ側：左右両チャンネルの信号が入るようにする。
（どちらが欠けても、ステレオ出力の片側分の音しか出ません。）

ペダルを接続するには

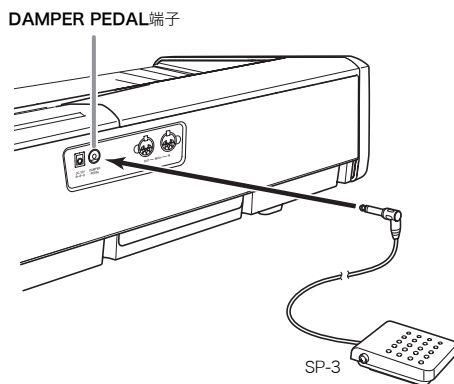
DAMPER PEDAL端子とダンパーペダル機能について

付属のペダル（SP-3）を、DAMPER PEDAL端子に接続して、ダンパーペダルとして使用できます。

演奏中にこのペダルを踏むと、鍵盤で弾いた音の余韻が非常に長くなります。

- GRAND PIANO音色（MODERN/CLASSIC/VARIATION）を選んでいる場合は、実際のグランドピアノでダンパーペダルを使用している時のような共鳴効果も生み出せます。

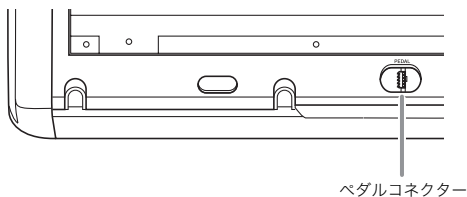
【背面部】



ペダルコネクターについて

ペダルコネクターには、別売のペダルユニット（SP-3）をご利用ください。よりグランドピアノに近い、表現力豊かなペダル演奏が楽しめます。

【底面部】



【SP-30のペダル機能】

● ダンパーペダル

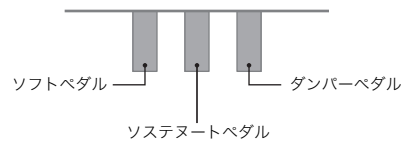
左記のダンパーペダル機能に加えて、ペダルを途中まで踏んで浅く効果をかける「ハーフペダル」にも対応します。

● ソフトペダル

演奏中にこのペダルを踏むと、ペダルを踏んでから鍵盤で弾いた音が弱まるだけでなく、音色が柔らかく聞こえる効果が得られます。

● ソステヌートペダル

このペダルを踏んだ時点で押さえている鍵盤の音だけ、ペダルを離すまで余韻が長くなる効果が得られます。



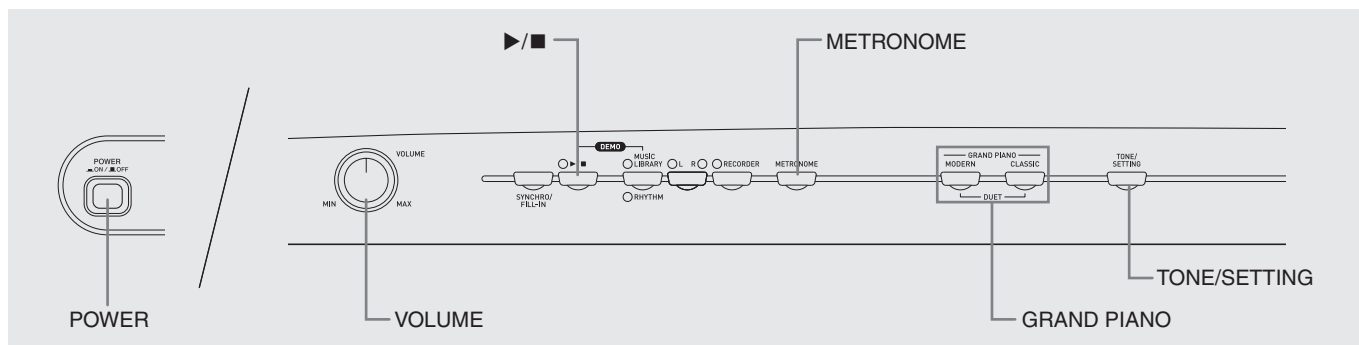
メモ

- SP-30を使用するには、別売品の専用スタンドCS-65PもしくはCS-66Pが必要です。

付属品・別売品について

付属品や別売品は、必ず本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

いろいろな音色を聴いてみましょう



音色を選んで弾いてみる

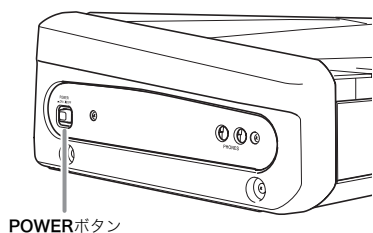
本機には、11種類の音色があります。

※ 音色名は、本機鍵盤部の上側に記されています。

8ページの「鍵盤を使って音色を選ぶには」を参照してください。

1. POWERボタンを押して、電源を入れます。

【左側面部】



重要!

- 本機は電源オン時にシステムの準備を行います。POWERボタンを押すと、LRボタンのランプが交互に点灯し、約6秒後に使用可能となります。

2. 音色を選びます。

- グランドピアノ音色のモダンもしくはクラシックを選ぶには、GRAND PIANOボタン (MODERN、CLASSIC) のいずれかを押します。
 - 押したボタンの上にかかれた音色が選ばれて、ランプが点灯します。
- その他の音色を選ぶには
 - 8ページの「鍵盤を使って音色を選ぶには」を参照してください。

3. 音量を調節します。

- VOLUMEつまみを使って調節します。

4. 鍵盤を弾いてみましょう。

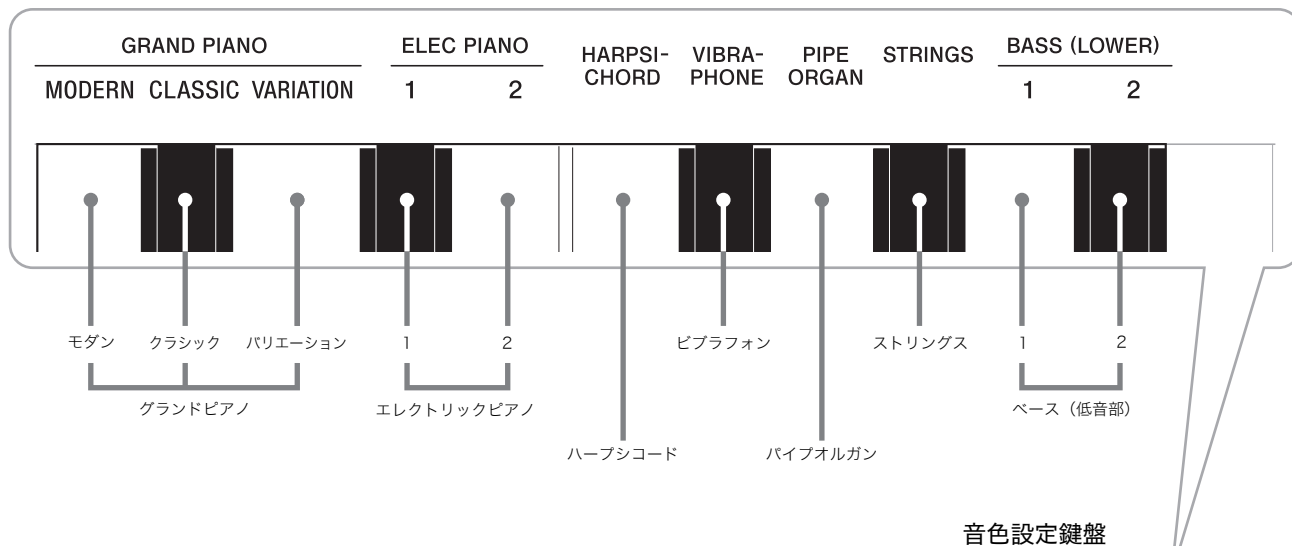
メモ

おすすめのグランドピアノ音色 (モダン、クラシック) について

- 11種類の音色のうち、最初の2音色はステレオサンプリングによるグランドピアノ音色で、この2音色のみボタンを使って選べます。それぞれ異なる長所を持ったおすすめの音色ですので、演奏する曲やお好みに合わせてお選びください。

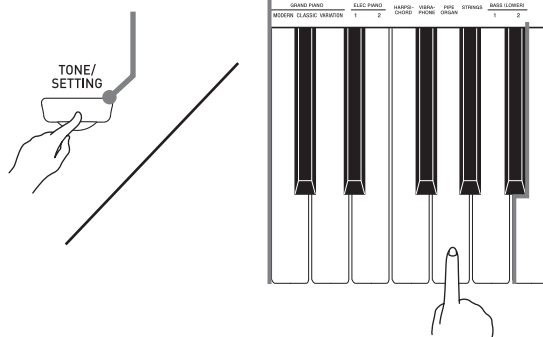
音色名	特徴
モダン	明るく硬めのグランドピアノ音色です。鍵盤タッチによる音量や音質の変化がつきやすく、残響効果 (リバーブ) も深めにかかります。ダイナミックで華やかな演奏効果をあげるのに適しています。
クラシック	アコースティックピアノに近い、自然な響きと演奏性を持つピアノ音色です。リバーブなどの派手な効果は控えめですが、代わりにアコースティックピアノのペダル使用時の共鳴効果 (アコースティックレゾナンス) が分かりやすく、繊細な表現が可能です。練習にも適しています。

鍵盤を使って音色を選ぶには



1. TONE/SETTINGボタンを押したまま、選みたい音色に対応している鍵盤を押します。
例：パイプオルガンを選ぶとき

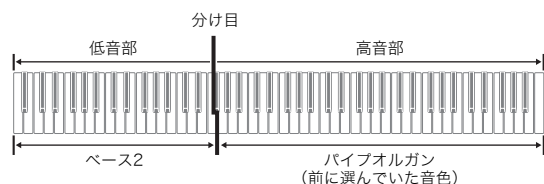
TONE/SETTINGボタン



低音部専用の音色（ベース1/2）について

上記の手順1で、右端の2つのベース音色（BASS 1/2）を選んだ場合には、低音部（左側）の鍵盤だけが選んだ音色になり、高音部（右側）の鍵盤には前の音色がそのまま残ります。

- このように鍵盤が別れて、それぞれ別々の音色で弾ける機能を「スプリット」と呼びます。

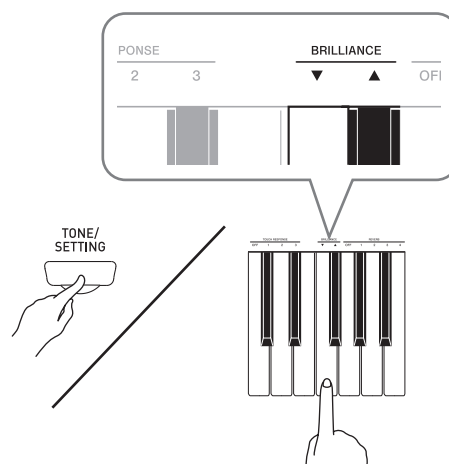


メモ

- ベース1/2以外の音色を選ぶと、通常の1音色の状態に戻ります。
- 録音機能のトラック2の録音では、ベース音色は選べません。

音色の明るさを調節するには (ブリリアンス)

1. TONE/SETTINGボタンを押したまま、BRILLIANCE鍵盤を押して音の明るさ（-3〜3）を設定します。



- ▼鍵盤：まるやかな柔らかい感じの音になる
- ▲鍵盤：明るく硬い感じの音になる

メモ

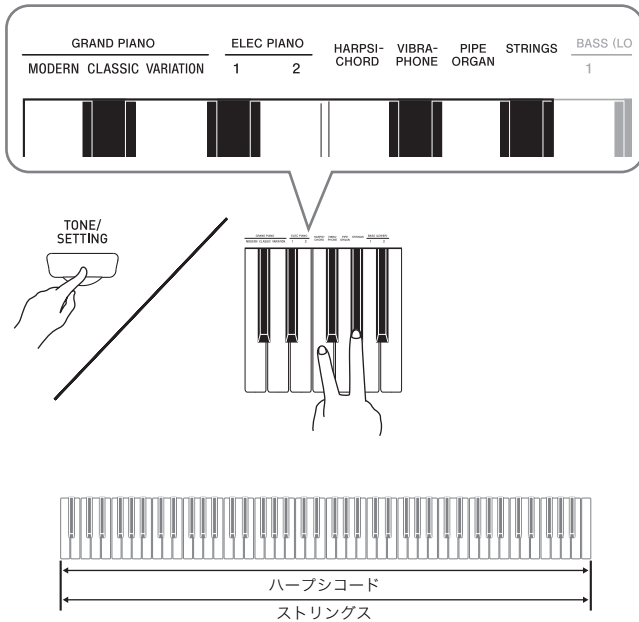
- ▼▲鍵盤を一緒に押すと、最初の設定（初期値）に戻ります。

2つの音色を重ねてみる (レイヤー)

本機では、2種類の音色を重ねて演奏できます。

1. TONE/SETTINGボタンを押しながら、重ねたい音色に対応している鍵盤を2つ一緒に押します。

例：HARPSICHORD鍵盤とSTRINGS鍵盤を一緒に押す。



2. もとの1音色の状態に戻すには、GRAND PIANOボタンを押す、など音色を選び直します。

メモ

- BASS (LOWER) 1と2は、他の音色と重ねることはできません。
- 録音機能のトラック2の録音では、レイヤーの設定はできません。

音色に効果をかけてみる (エフェクト)

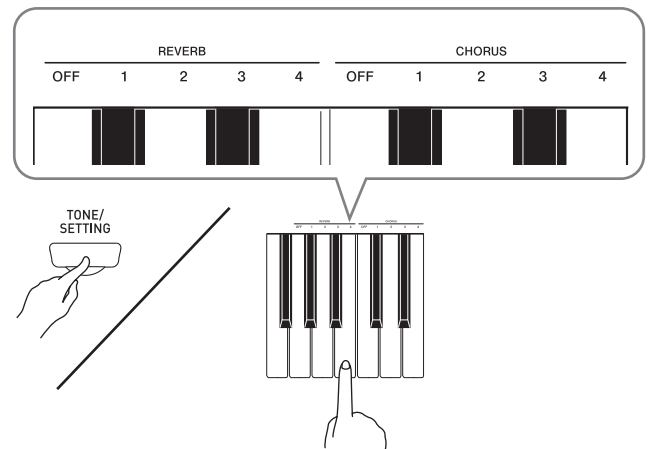
リバーブ... 残響の効果

コーラス... 音が広がるような効果

効果を設定するには

リバーブ、コーラスには各4タイプあります。

1. TONE/SETTINGボタンを押したまま、REVERBまたはCHORUS鍵盤を押して設定値を選びます。

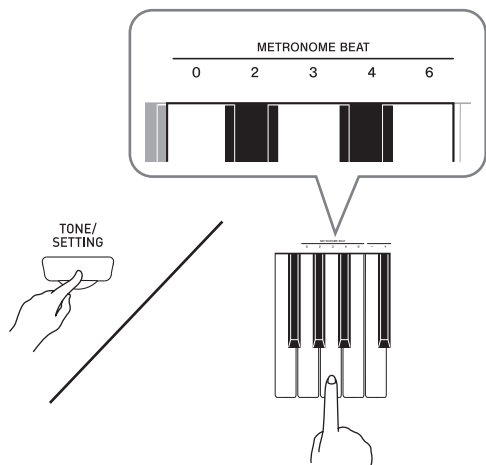


例：リバーブの4を選ぶ

- リバーブの設定値
OFF: オフ
1 : ルーム
2 : 小ホール
3 : 大ホール
4 : スタジアム
- コーラスの設定値
OFF: オフ
1 : コーラス効果薄め
2 : コーラス効果中位
3 : コーラス効果深め
4 : フランジャー (音にうねりを与える)

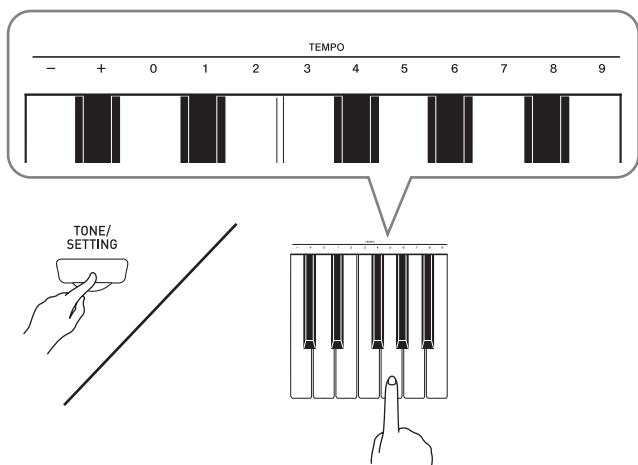
メトロノームを鳴らしてみる

1. METRONOMEボタンを押します。
 - メトロノームが鳴ります。
 - ▶/■ボタン上のランプが拍に合わせて点滅します。
2. TONE/SETTINGボタンを押したまま、METRONOME BEAT鍵盤を押して拍子を設定します。



- 拍子は、0、2、3、4、6拍子から選べます。「0」を設定すると、ベル音は鳴らずにクリック音のみが鳴ります。拍子にかかわらず練習するのに便利です。

3. TONE/SETTINGボタンを押したまま、TEMPO鍵盤を押してテンポ（20～255）を設定します。



- +/-鍵盤を押すと、テンポが1ずつ上下します。
- 数値入力鍵盤（0～9）を押して、テンポの値を直接入力することもできます。入力は必ず3桁で行ってください。

例：値“96”なら、“0→9→6”と入力します。

4. メトロノームを止めるには、METRONOMEボタン、または▶/■ボタンを押します。

メモ

- 手順3で+/-鍵盤を一緒に押すと、そのとき選ばれているミュージックライブラリーの曲、もしくはリズムのおすすめのテンポになります。

メトロノームの音量の設定

メトロノームが鳴っている／鳴っていないに関わらず設定できます。

1. TONE/SETTINGボタンを押したまま、「メトロノームの音量」鍵盤を押して音量（0～42）を設定します。
 - 使用する鍵盤は、23ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認してください。
 - ▼▲鍵盤を押すと、メトロノームの音量が1ずつ上下します。

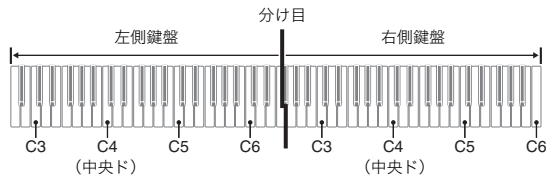
メモ

- ▼▲鍵盤を一緒に押すと、最初の設定（初期値）に戻ります。

2台ピアノにして弾いてみる (デュエット)

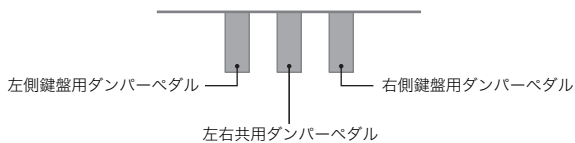
鍵盤を中央から左右に分けて、2台ピアノにして連弾ができます。左右の鍵盤はほぼ同じ音域になり、別売のペダルユニット (SP-30) をご使用の場合は、両端のペダルがそれぞれ左側鍵盤用と右側鍵盤用のダンパーペダルになります。左側で先生がお手本演奏をして、右側で生徒さんが同じメロディーを弾く、といった活用もできます。

【鍵盤】



【ペダル】

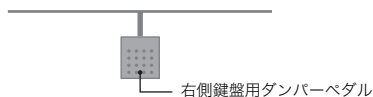
● 別売のSP-30をご使用の場合



メモ

- 右側鍵盤用ダンパーペダルのみ、ハーフペダルに対応します。

● 付属のSP-3をご使用の場合



メモ

- ハーフペダルには対応しません。
- SP-3を左側鍵盤用ダンパーペダルとして使用することはできません。

1. 2つのGRAND PIANOボタン (MODERN、CLASSIC) のいずれかを押して、2台ピアノで弾きたい音色を選びます。

メモ

- デュエット機能では、上記の2種類以外の音色は設定できません。

2. GRAND PIANOボタンを2つ一緒に押します。

- 2台ピアノの状態 (デュエットオン) になります。このときGRAND PIANOボタンのランプが、短時間点滅して、設定が完了したことをお知らせします。

3. 2つのGRAND PIANOボタンのいずれか1つを押すと、デュエットオンが解除されて、通常の状態に戻ります。

重要!

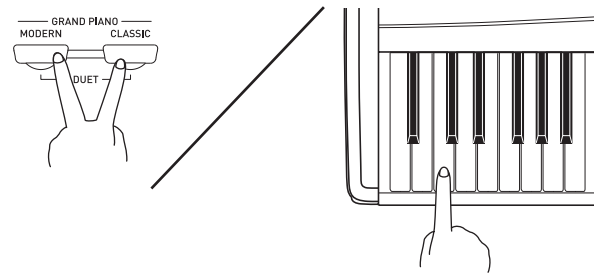
- 手順3で、TONE/SETTINGボタンと鍵盤を使っていずれかの音色を選んだ場合にも、デュエットオンは解除されず。
- デュエットオンのときは、自動伴奏 (15ページ) や録音機能 (18ページ) は使えません。

音域を変更するには

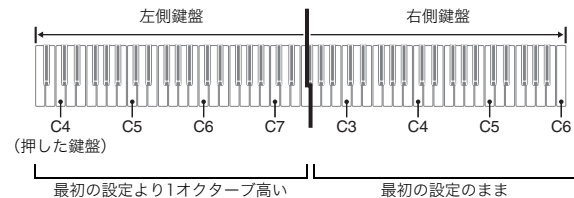
最初の設定から、左右の鍵盤それぞれの音域をオクターブ単位で変更できます。

例えばピアノ曲の左手パートと右手パートを2人で分担して演奏しようとする、最初の設定では音域が足りなくなりがちです。そのような場合に曲に合わせて音域を変更できます。

1. GRAND PIANOボタンを2つ一緒に押したまま、左側鍵盤でC4 (中央ド) の高さに設定したいC (ド) の鍵盤を押します。



例：左端のC (ド) の鍵盤を押した場合は、以下の音域になります。

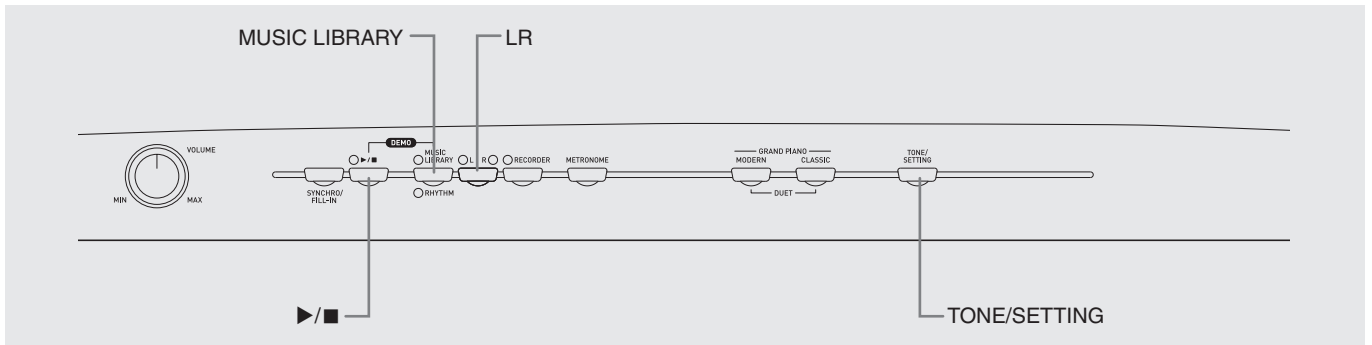


2. GRAND PIANOボタンを2つ一緒に押したまま、右側鍵盤でC4 (中央ド) の高さに設定したいC (ド) の鍵盤を押します。

メモ

- デュエットオンを解除してもう一度オンにすると、最初の音域設定に戻ります。

曲を聴いてみる(デモ演奏/ミュージックライブラリー)



重要!

- 本機では、曲を変更すると数秒間、曲データの読み込みを行います。読み込み中は鍵盤演奏やボタン操作ができません。また、鍵盤演奏中にこの操作を行うと発音が停止します。

デモ演奏を聴いてみる

本機には60曲（ミュージックライブラリー）が内蔵されています。この全60曲を連続して聴くことができます。

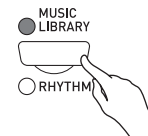
1. MUSIC LIBRARYボタンを押しながら、▶/■ボタンを押します。
 - MUSIC LIBRARYボタンと▶/■ボタンのランプが点滅して、演奏が始まります。
 - 01番から60番までの60曲を、番号順に繰り返しデモ演奏します。
 - デモ演奏にあわせて、メロディー音色で鍵盤演奏できます。
 - デモ演奏中に曲を変更できます。操作方法は次項「ミュージックライブラリーの曲を1曲ずつ聴いてみる」の手順3を参照してください。
2. デモ演奏を止めるには、▶/■ボタンを押します。

メモ

- デモ演奏中は、上記の曲変更と演奏停止以外の操作はできません。

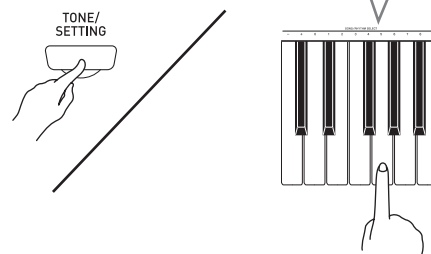
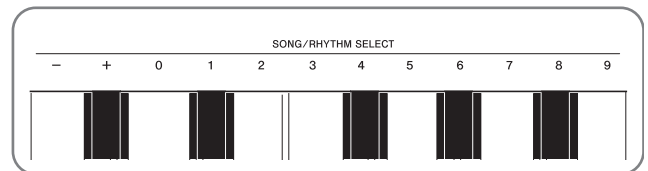
ミュージックライブラリーの曲を1曲ずつ聴いてみる

1. MUSIC LIBRARYボタンを押して、ミュージックライブラリーランプ（上側）を点灯させます。



- ボタンを押すごとにランプの点灯（上/下）が切り替わります。

2. 29ページのソングリストで、選みたい曲の番号を調べます。
3. TONE/SETTINGボタンを押したまま、SONG/RHYTHM SELECT鍵盤を押して、曲を選びます。



- +/-鍵盤を押すと、曲の番号が1ずつ上下します。
- 数値入力鍵盤（0~9）を押して、曲の番号を直接入力することもできます。

例：08番の曲なら、“0→8”と入力します。

重要!

- + 鍵盤もしくは- 鍵盤を素早く連打すると、曲データ読み込みの関係で、スムーズに変更できない場合があります。遠い番号の曲に変更する場合は、数値入力鍵盤 (0~9) をご使用ください。

4. ▶/■ ボタンを押します。

- 選んだ曲の演奏が始まります。

5. 演奏を止めるには、もう一度▶/■ ボタンを押します。

- 曲が最後まで演奏されると自動的に演奏が止まります。

メモ

- 手順3で+/- 鍵盤を一緒に押すと、01番の曲が選ばれます。
- 演奏のテンポや曲の音量を設定できます。設定方法は、22ページの「その他の設定」を参照してください。

ミュージックライブラリーの曲を練習してみる

曲の右手パートまたは左手パートの音を消して、自分で弾く練習ができます。

メモ

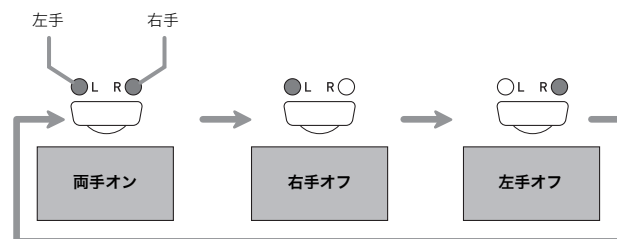
- ミュージックライブラリーには、連弾曲 (12、37、45番) が入っています。連弾曲を選んだ場合は、第1ピアノ<Primo>または第2ピアノ<Secondo>の音を消して、自分で弾く練習ができます。
- 曲を演奏しているときは、曲調に変化をつけるためにテンポが変化します。

準備

- 曲を選び、テンポを設定しておきます。(22ページの「その他の設定」参照)。

1. LRボタンを押して、音を消したいパートを選びます。

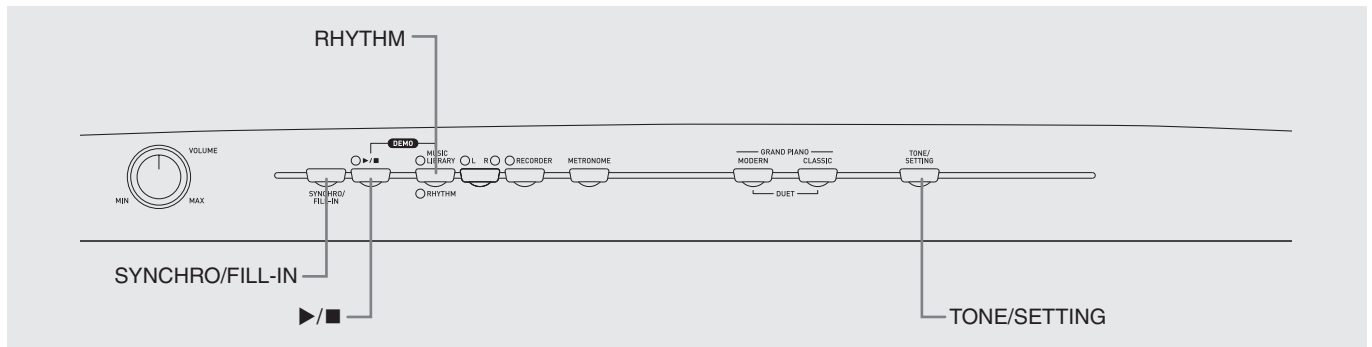
- ボタンを押すごとにボタン上の2つのランプがそれぞれ点灯/消灯します。消したいパートのランプを消灯させます。

**2. ▶/■ ボタンを押します。**

- 演奏が始まります。手順1で選んだパートは鳴りません。

3. 音を消したパートを自分で弾きます。**4. 曲を止めるには、もう一度▶/■ ボタンを押します。**

リズムを鳴らしてみる



リズムを選ぶ

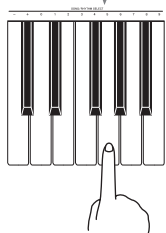
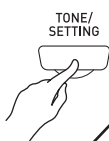
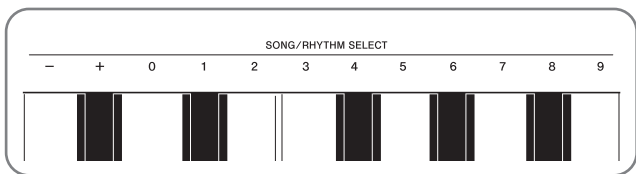
本機には20種類のリズムが内蔵されています。

1. RHYTHMボタンを押してリズムランプ（下側）を点灯させます。



- ボタンを押すことにランプの点灯（上/下）が切り替わります。

2. 29ページのリズムリストで、選みたいリズムの番号を調べます。
3. TONE/SETTINGボタンを押したまま、SONG/RHYTHM SELECT鍵盤を押して、リズムを選びます。



- +/-鍵盤を押すと、リズムの番号が1ずつ上下します。
- 数値入力鍵盤（0～9）を押して、リズムの番号を直接入力することもできます。

例：03番のリズムなら、“0→3”と入力します。

メモ

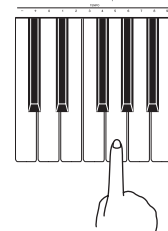
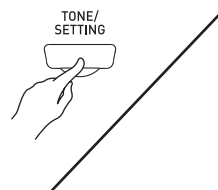
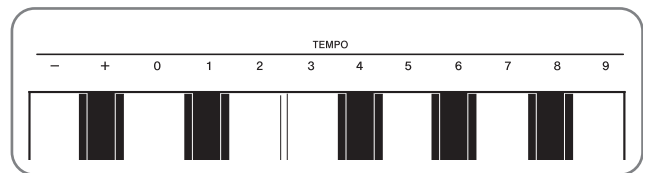
- +/-鍵盤を一緒に押すと、01番のリズムが選ばれます。

4. ▶/■ボタンを押します。
 - 選んだリズムが鳴ります。

5. リズムを止めるには、もう一度▶/■ボタンを押します。

テンポを調節するには

1. TONE/SETTINGボタンを押したまま、TEMPO鍵盤を押してテンポ（20～255）を設定します。



- +/-鍵盤を押すと、テンポが1ずつ上下します。
- 数値入力鍵盤（0～9）を押して、テンポの値を直接入力することもできます。入力は必ず3桁で行ってください。

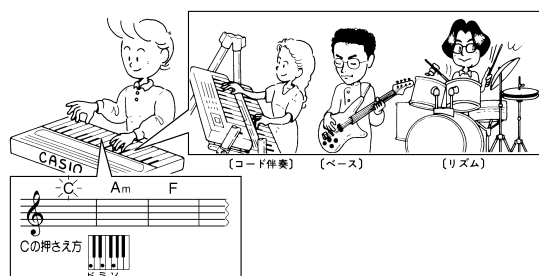
例：値“96”なら、“0→9→6”と入力します。

メモ

- +/-鍵盤を一緒に押すと、そのとき選ばれているリズムのおすすめのテンポになります。

自動伴奏を使ってみる

コードを指定するだけでリズム、ベース音、コード楽器の伴奏が自動的に演奏されます。1人でアンサンブル演奏のような楽しさが実現します。



メモ

- 以下のリズムは、モードをカシオコード、フィンガード、フルレンジコードのいずれかに設定した状態で、コードを指定してご使用ください。コードを指定しない場合は、打楽器音が小さな音量で鳴ります。

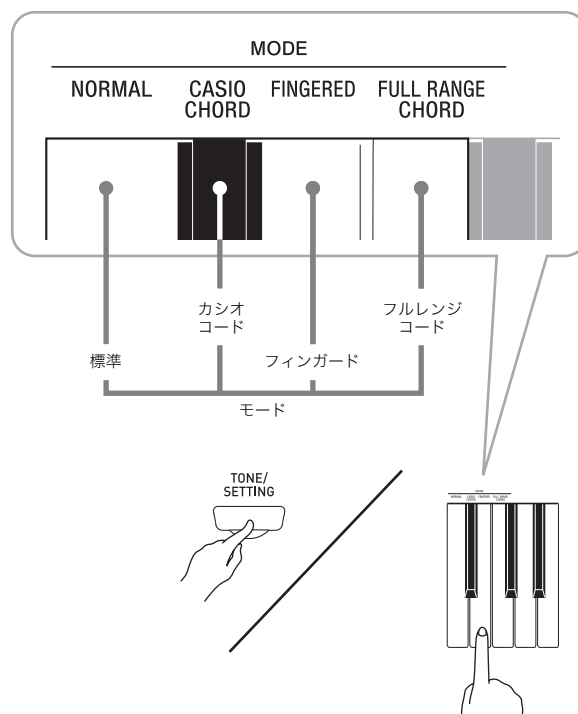
10	ROCK' N' ROLL
14	ARPEGGIO 1
15	ARPEGGIO 2
16	MARCH 1
17	MARCH 2
18	STRIDE PIANO
19	WALTZ 1
20	WALTZ 2

自動伴奏を使って演奏してみる

準備

- リズムを選び、テンポを調節しておきます。

1. TONE/SETTINGボタンを押したまま、MODE鍵盤を押してコードの指定方法を選びます。



- コードの指定方法とモードについては、16ページをお読みください。

2. SYNCHRO/FILL-INボタンを押します。

- 伴奏鍵盤を押すと同時にリズムとコード伴奏を鳴らす状態になります。
- ▶/■ボタン上のランプが点灯します。

3. 伴奏鍵盤で曲の最初のコードを指定します。

- リズムとコード伴奏が同時にスタートします。

4. 曲のコードを次々と指定します。

- 16ページの「コードの指定方法について」をお読みください。
- ▶/■ボタン上のランプが拍子にあわせて点滅します。

メモ

- 曲の雰囲気の変り目でSYNCHRO/FILL-INボタンを押すと、リズムが一時的に変化します。

5. 演奏を終わらせるには、▶/■ボタンを押します。

メモ

- 伴奏の音量を調節できます。設定方法は、22ページの「その他の設定」を参照してください。

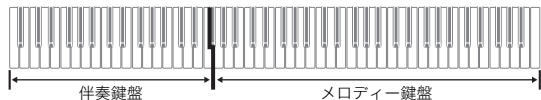
コードの指定方法について

コードの指定方法によって、モードを選びます。自動伴奏を使わない場合は、「標準」に設定します。

■ カシオコードについて

この方法では、コードを知らなくても伴奏鍵盤の押し方により4種類のコードが簡単に指定できます。伴奏鍵盤とコードの指定方法は次のとおりです。

【カシオコードの伴奏/メロディー鍵盤】



重要!

- カシオコードの伴奏鍵盤は「コード指定スイッチ」としてのみ働き、通常の鍵盤演奏はメロディー鍵盤の範囲でのみ可能となります。

コードの種類	例
メジャーコード コード名と同じ音名の鍵盤を1つ押します（伴奏鍵盤の範囲内であれば、1オクターブ違う同音でもかまいません）。	音名→ C (Cメジャー)
マイナーコード メジャーコードの押さえ方に加えて、伴奏鍵盤内の、それより右の鍵盤を1つ押します。	Cm (Cマイナー)
セブンスコード メジャーコードの押さえ方に加えて、伴奏鍵盤内の、それより右の鍵盤を2つ押します。	C7 (Cセブンス)
マイナーセブンスコード メジャーコードの押さえ方に加えて、伴奏鍵盤内の、それより右の鍵盤を3つ押します。	Cm7 (Cマイナーセブンス)

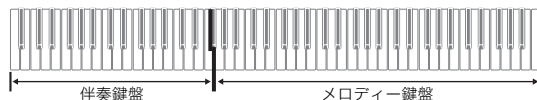
メモ

- 2つ目以降の伴奏鍵盤は、1つめより右側なら白鍵/黒鍵を問わずどれでも使用できます。

■ フィンガードについて

伴奏鍵盤の範囲内で、コードの構成音を押さえることにより、コードを指定する方法です。例えば、ド・ミ・ソと押さえると、Cのコードが指定されます。

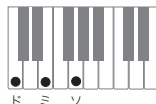
【フィンガードの伴奏/メロディー鍵盤】



重要!

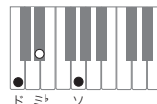
- フィンガードの伴奏鍵盤は「コード指定スイッチ」としてのみ働き、通常の鍵盤演奏はメロディー鍵盤の範囲でのみ可能となります。

C(メジャー)



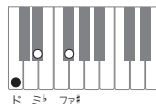
ド ミ ソ

Cm(マイナー)



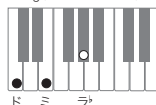
ド ミ ソ

Cdim(ディミニッシュ)



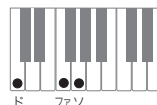
ド ミ ファ#

Caug(オーギュメント)*1



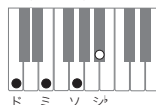
ド ミ ラ

Csus4(サスフォー)



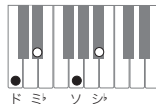
ド ファソ

C7(セブンス)*2



ド ミ ソ シ

Cm7(マイナーセブンス)*2



ド ミ ソ シ

CM7(メジャーセブンス)*2



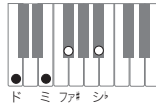
ド ミ ソ シ

Cm7b9(マイナーセブンスフラットナイン)



ド ミ ファ# シ

C7#9(セブンスフラット)*1



ド ミ ファ# シ

C7sus4(セブンスサスフォー)



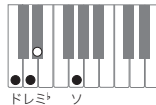
ド ファソ シ

Cadd9(アドナインズ)



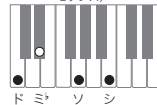
ドレミ ソ

Cm add9(マイナーアドナインズ)



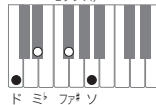
ドレミ ソ

CmM7(マイナーメジャーセブンス)*2



ド ミ ソ シ

Cdim7(ディミニッシュセブンス)*1



ド ミ ファ# ソ

メモ

- 根音が「C」以外の場合は、伴奏鍵盤の範囲内での対応となります（30ページ「フィンガードコード一覧表」参照）。

※1 転回形（下記のメモを参照）は使えません。最低音が根音となります。

※2 5度のソの音を押さなくても、同じコードが指定できます。

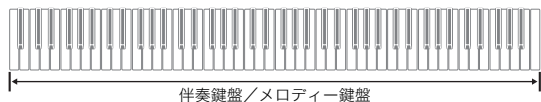
メモ

- 伴奏鍵盤であれば上記の押さえ方（例えばCを「ドミソ」と押さえる）だけでなく、転回形（コードの構成音は同じで並び方の違う押さえ方。例えばCを「ミソド」や「ソドミ」と押さえる）も有効です。
 - …※1のコードを除く。
- 原則として上記の例のように、コードの構成音すべてを押さえる必要があります。構成音を省略したり1音のみを押さえても無効となり、意図したコードは指定されません。
 - …※2のコードを除く。

■ フルレンジコードについて

この方法で指定できるコードは、フィンガードの15種類に23種類を加えた計38種類です。この場合、本機が判別できるコードの指定方法で鍵盤を3つ以上押したときに限り、コードが指定されます。それ以外（本機が判別できないコードや2つ以下の鍵盤を押している場合）ではメロディー鍵盤と同様に発音しますので、すべての鍵盤でコードの指定とメロディー演奏が行えます。

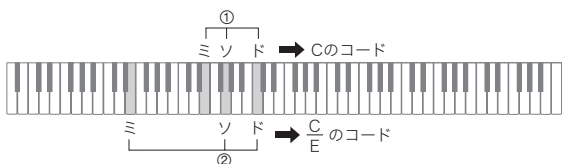
【フルレンジコードの伴奏/メロディー鍵盤】



● 本機で判別できるコード

分類	コードの種類
フィンガードの対象コード	15種類（16ページ「フィンガードについて」参照）
それ以外のコード	23種類 以下は、“C”をベース音とした場合の例です C6, Cm6, C69 $\frac{D^b}{C}, \frac{D}{C}, \frac{E}{C}, \frac{F}{C}, \frac{G}{C}, \frac{A^b}{C}, \frac{B^b}{C},$ $\frac{B}{C}, \frac{D^b m}{C}, \frac{Dm}{C}, \frac{Fm}{C}, \frac{Gm}{C}, \frac{Am}{C}, \frac{B^b m}{C},$ $\frac{Ddim}{C}, \frac{A^b 7}{C}, \frac{F7}{C}, \frac{Fm7}{C}, \frac{Gm7}{C}, \frac{A^b add9}{C}$

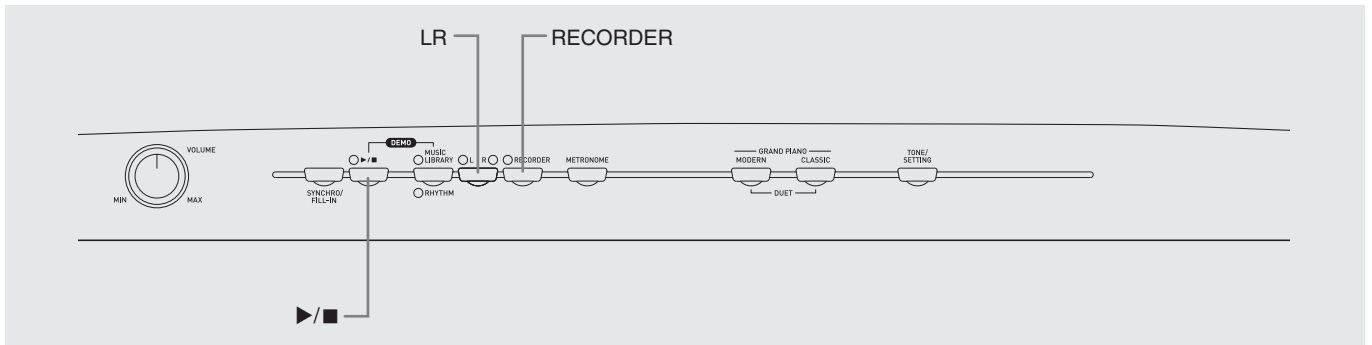
(例) Cメジャーまたは $\frac{C}{E}$ コードの場合



📌 メモ

- 最低音と右隣の音との間に、半音が6つ以上はさまる場合には、最低音をベース音として判別します。

演奏を録音／再生してみる(録音機能)



本機で演奏した内容を録音して、再生できます。

トラックについて

曲は2つのトラック（録音内容が記録される場所）で構成されています。トラック1、トラック2と順番に録音していけば、録音後に2つのトラックを1つの曲として、一度に再生することができます。



録音できる容量

- 約5,000音符まで録音できます。
- 録音できる容量が残り少なくなると、ランプの点滅が速くなります。
- 演奏の途中で録音できる容量をこえると、自動的に録音が止まります。

録音される内容

- 鍵盤演奏
- 演奏に使った音色
- ペダル操作
- エフェクト設定※
- テンポ設定※
- レイヤー設定※
- リズム番号※
- コード指定※
- フィルイン操作※

※トラック1でのみ録音できます。

録音内容の保持

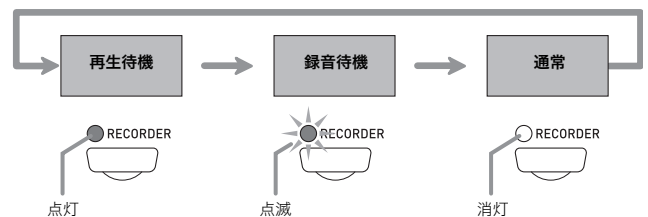
- 新しく録音した時点で、前の録音内容は消去されます。
- 録音中に電源が切れると、録音してあった内容はすべて消去されます。

重要!

- 本機の故障、修理などによる録音内容の消去により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

RECORDERボタンの使い方

RECORDERボタンを、1回押すごとに以下のように状態が切り替わります。



演奏を録音してみる

トラック1か2を選んで録音し、さらに録音したトラックの再生に合わせてもう一方のトラックに録音できます。

トラックを選んで録音するには

1. RECORDERボタンを2回押して、ボタンのランプを点滅させます。



- Lランプが点滅し、トラック1へ録音待ちの状態になります。



2. LRボタンを押して、録音するトラックを選びます。

- 録音したいトラックのランプを点滅させます。
トラック1：Lランプ
トラック2：Rランプ

例：トラック1を選ぶ



3. 録音に使う音色やエフェクト（トラック1のみ）を選んでおきます。トラック1で自動伴奏を使って録音する場合は、リズム番号やモード、テンポも設定しておきます。

- 音色（7ページ）
- トラック1のみ
 - エフェクト（9ページ）
 - テンポ（14ページ）
 - リズム番号（14ページ）
 - モード（15ページ）

メモ

- メトロノームを鳴らしたい場合は、拍子とテンポを設定して、METRONOMEボタンを押します。設定方法は10ページの「メトロノームを鳴らしてみる」を参照してください。

4. 演奏を開始します。

- 自動的に録音がはじまります。

メモ

- リズムや自動伴奏を鳴らしてトラック1へ録音する場合は、▶/■ボタンを押して録音を開始します。
SYNCHRO/FILL-INボタンを押してから、コードを押さえて録音を開始することもできます。
- リズムや自動伴奏を鳴らさずにトラック1へ録音する場合は、鍵盤を弾いて録音を開始します。

5. 録音を止めるには、▶/■ボタンを押します。

- RECORDERボタンとLRボタンのランプが、点滅から点灯に変わります。
- 録音した内容をすぐに再生したい場合は、もう一度▶/■ボタンを押します。

6. 録音や再生が終わったら、RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを消灯させておきます。

録音済みのトラックの再生を聴きながら、もう一方のトラックに録音するには

1. RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。



2. LRボタンを押して、録音済みのトラックのランプを点灯させます。

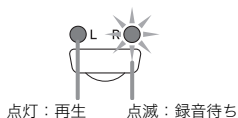
3. RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを点滅させます。

- Lランプが点滅します。

4. LRボタンを押して、録音するトラックを選びます。

- 録音するトラックのランプを点滅させます。

例：録音済みのトラック1を聴きながら、トラック2へ録音する



5. 必要に応じて、録音に使う音色やエフェクト（トラック1のみ）を設定しておきます。

6. ▶/■ボタンか鍵盤を押して、演奏を開始します。

- トラック1の再生と、トラック2への録音が同時にはじまります。

7. 録音を止めるには、▶/■ボタンを押します。

録音した演奏を再生してみる

1. RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。



メモ

- 両方のトラックに録音済みの場合、一方のトラックの音を消して再生できます。LRボタンを押すごとにボタン上の2つのランプがそれぞれ点灯／消灯します。音を消したいトラックのランプを消灯させます。

2. ▶/■ボタンを押します。

- 録音した内容が再生されます。

メモ

- 再生時は、テンポを変えることができます。
- 途中で止める時には、もう一度▶/■ボタンを押します。

録音した内容を消去するには

録音した内容をトラック単位で消去します。

重要!

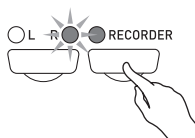
- 以下の操作を完了すると同時に、録音した内容が消去され、元に戻すことはできません。消去しようとしている内容を一度再生して、消去してもよいことをご確認の上、以下の操作を行うことをお勧めします。

1. RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。
2. RECORDERボタンをもう一度押して、ボタンのランプを点滅させます。



3. LRボタンを押して、消去したいトラックを選びます。
 - 選んだトラックのランプが点滅します。
4. ランプが以下の状態になるまで、RECORDERボタンを押し続けます。
 - 消去したいトラックのランプが点滅したまま、RECORDERボタンのランプが点滅から点灯に変わります。

例：トラック2を消去する。

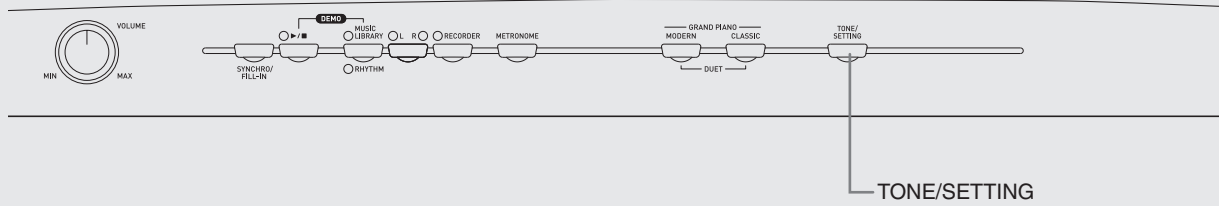


5. LRボタンを押します。
 - 選んだトラックの録音内容が消去され、再生待機の状態になります。
 - 操作を中止したい場合は、RECORDERボタンを押します。

メモ

- 上記の手順4から、手順5で消去を実行するまでの間は、LRボタンとRECORDERボタン以外の操作はできません。

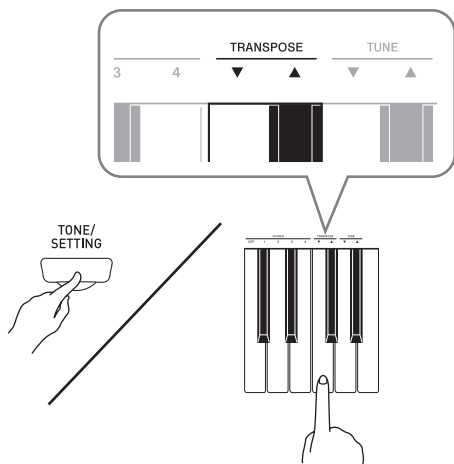
その他の設定



TONE/SETTINGボタンと鍵盤を使って、音色や曲を選ぶだけでなく、音の効果や鍵盤のタッチなどのさまざまな設定ができます。

設定するには

1. 設定したい項目を24ページの「設定項目一覧表」から選び、内容を確認します。
2. その項目の設定に使用する鍵盤の位置を、23ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認します。
3. TONE/SETTINGボタンを押しながら、手順2で確認した鍵盤を押して設定を行います。
 - 設定が完了すると、お知らせのための操作音が鳴ります。例：トランスポーズの設定で、半音下げるには、トランスポーズ▼鍵盤を一回押します



4. TONE/SETTINGボタンから指を離して、設定を終了します。

メモ

- 手順3で操作音が鳴らないようにすることもできます。24～25ページの「設定項目一覧表」の中の「⑩ 操作音」を参照してください。

鍵盤を押して設定する操作のタイプについて

設定する項目によって、鍵盤操作のタイプが異なります。操作タイプには以下の3種類があります。

タイプA：設定値を直接選ぶ。

- 例：STRINGS鍵盤を押して、音色の「ストリングス」を選びます。

タイプB：+/-や▼▲鍵盤で、設定値を1ずつ上下させる。

- 鍵盤を押し続けると、設定値が連続して変化します。
- 2つの鍵盤を一緒に押すと、最初の設定（初期値）に戻ります。

タイプC：数値入力鍵盤（0～9）で2桁以上の設定値を入力する。

- 例：テンポ120なら、「1→2→0」と入力します。

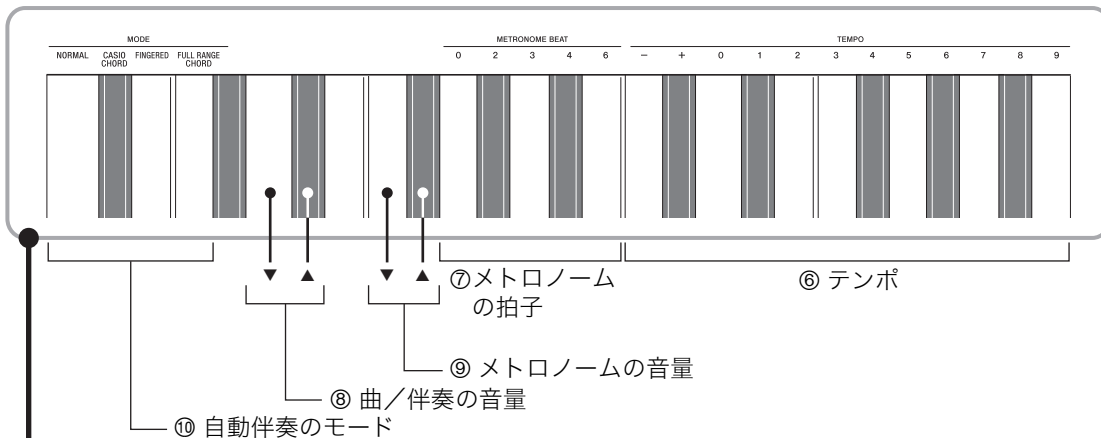
メモ

- 24ページの「設定項目一覧表」の中の「操作タイプ」から、設定したい項目の操作タイプを確認してください。

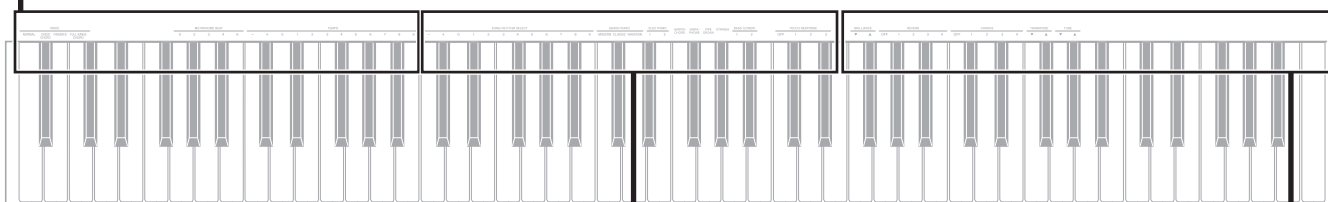
設定に使用する鍵盤一覧

• ①～⑭は24ページの「設定項目一覧表」での項目番号です。

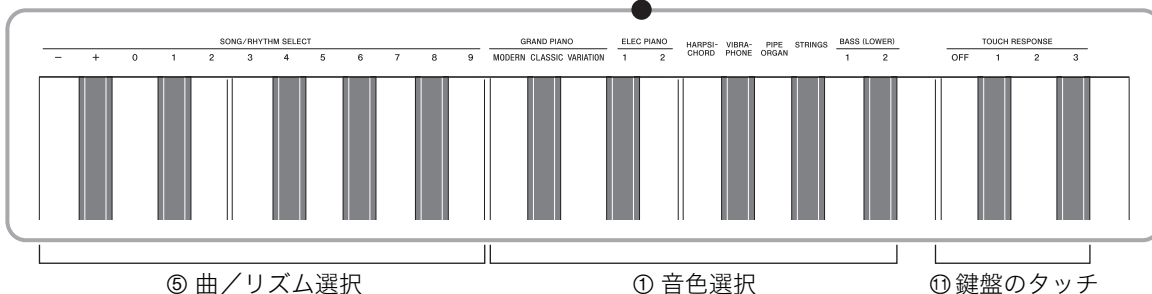
【左側鍵盤】



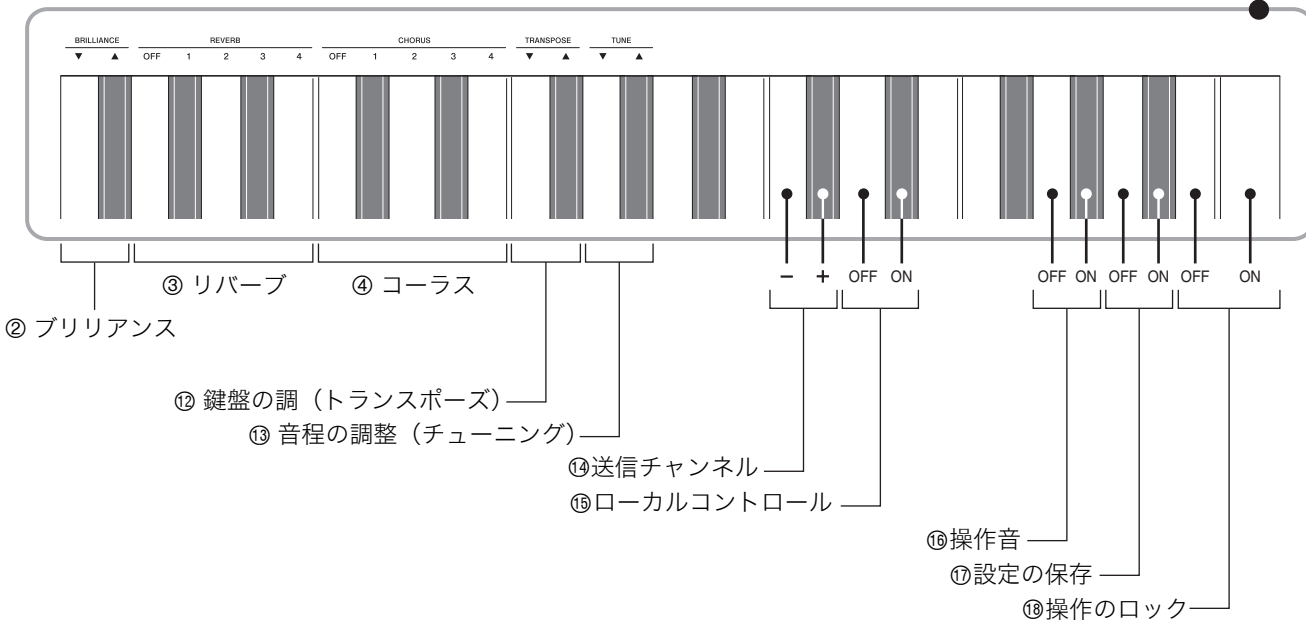
【全体図】



【中央鍵盤】



【右側鍵盤】



設定項目一覧表

■ 音色についての設定

項目	設定値	操作タイプ (22ページ参照)	内容	備考
① 音色選択	7ページ参照 初期値：GRAND PIANO (MODERN)	A	鍵盤の音色を選びます。 (7ページ参照)	
② ブリリアンス (BRILLIANCE)	-3~0~3 初期値：0	B	音の明るさを設定します。 (8ページ参照)	
③ リバーブ (REVERB)	オフ (OFF)、1~4 初期値：2	A	音の残響効果を設定しま す。 (9ページ参照)	
④ コーラス (CHORUS)	オフ (OFF)、1~4 初期値：オフ	A	音に広がりを与える効果を 設定します。 (9ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> デュエット機能のオン中には、設定できません。 2つの音色を重ねているときにコーラスを設定すると、音色を重ねるときに後から鍵盤を押して指定した方の音色のみに効果がかかります。 ベース音色を使用しているときにコーラスを設定すると、ベース音色のみに効果がかかり、高音部の音色には効果がかかりません。

■ 曲/リズム/メトロノームについての設定

項目	設定値	操作タイプ (22ページ参照)	内容	備考
⑤ 曲/リズム選択 (SONG/ RHYTHM SELECT)	01~60 (曲) 01~20 (リズム) 初期値：01	B (+/-) C (0~9)	ミュージックライブラリー の曲やリズムを選びます。 (12ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> 数値入力鍵盤 (0~9) を使って設定する場合は、必ず2桁で入力してください。 例：08番を入力するには、“0→8” と最初に“0”を入力する。
⑥ テンポ (TEMPO)	020~255 初期値：120	B (+/-) C (0~9)	ミュージックライブラリー 曲やメトロノーム、録音機 能での録音/再生などのテ ンポを設定します。 (10ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> 数値入力鍵盤 (0~9) を使って設定する場合は、必ず3桁で入力してください。 例：テンポ90を入力するには、“0→9→0” と最初に“0”を入力する。
⑦ メトロノームの拍子 (METRONOME BEAT)	0、2、3、4、6 初期値：4	A	メトロノームの拍子を設定 します。 (10ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> ミュージックライブラリー曲の再生中は、設定できません。
⑧ 曲/伴奏の音量	00~42 初期値：42 (曲) 38 (伴奏)	B	ミュージックライブラリー 曲や自動伴奏の音量を設定 します。	
⑨ メトロノームの 音量	00~42 初期値：36	B	メトロノームの音量を設定 します。	
⑩ 自動伴奏のモー ド (MODE)	標準 カシオコード フィンガード フルレンジコード 初期値：標準	A	自動伴奏のコードを指定す る方式を選びます。 (16ページ参照)	

■ 鍵盤の設定

項目	設定値	操作タイプ (22ページ参照)	内容	備考
⑪ 鍵盤のタッチ (TOUCH RESPONSE)	オフ (OFF)、1~3 初期値：2	A	鍵盤を弾くときの強弱感度を設定します。 設定値が小さいほど、弱めのタッチで大きな音が出ます。	
⑫ 鍵盤の調 (トランスポーズ) (TRANSCOPE)	-12~0~12 初期値：0	B	鍵盤全体の調を、半音単位で上下させることができます。	<ul style="list-style-type: none"> ミュージックライブラリー曲の再生中と、デュエット機能のオン中は設定できません。 調を高く設定している場合、音色によっては最高鍵域で音の高さが不明瞭になる場合があります。
⑬ 音程の調整 (チューニング) (TUNING)	-99~0~99 初期値：0	B	本機全体のピッチを、A4=440Hzから1セント単位 (100セント=半音) で上下させることができます。	<ul style="list-style-type: none"> ミュージックライブラリー曲の再生中は設定できません。

■ MIDI関連/その他の設定

項目	設定値	操作タイプ (22ページ参照)	内容	備考
⑭ 送信チャンネル	01~16 初期値：01	B	本機のMIDIメッセージを外部の機器へ送信するチャンネルを、1~16チャンネルの中から選びます。	
⑮ ローカル コントロール	オフ、オン 初期値：オン	A	オフに設定すると、鍵盤と音源が切り離され、鍵盤を弾いても音が鳴らなくなります。MIDIで接続した外部機器のみを鳴らしたい場合などに使用します。	<ul style="list-style-type: none"> ミュージックライブラリー曲の再生中は設定できません。
⑯ 操作音	オフ、オン 初期値：オン	A	オフに設定すると、 TONE/SETTING ボタンを押しながら鍵盤で設定を行ったときに、操作音が鳴らなくなります。	<ul style="list-style-type: none"> 本設定は、本機の電源を切った後も保存されます。 ミュージックライブラリーの曲、リズムやメトロノームの再生中、および録音機能の使用中は設定できません。
⑰ 設定の保存	オフ、オン 初期値：オフ	A	オンに設定すると、その時点の各種設定内容※1が保存され、本機の電源を入れ直したときにその設定になります。 オフに設定すると、電源を入れ直すと本機全体の設定※2がリセットされます。	<ul style="list-style-type: none"> ミュージックライブラリーの曲、リズムやメトロノームの再生中、デュエットオン中、および録音機能の使用中は設定できません。 <p>※1 以下の設定は保存されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> デュエット機能のオン/オフ 曲のLR (パート) 選択 ローカルコントロール <p>※2 操作音のオン/オフ設定は除く</p>
⑱ 操作のロック	オフ、オン 初期値：オフ	A	オンに設定すると、ボタンがロックされて操作できなくなります (電源ボタンとロック解除の操作を除く)。誤ってボタンに触って設定が変わったりするのを防止できます。	<ul style="list-style-type: none"> ミュージックライブラリーの曲、リズムやメトロノームの再生中、および録音機能の使用中は設定できません。

MIDI機能を使ってみる

MIDIについて

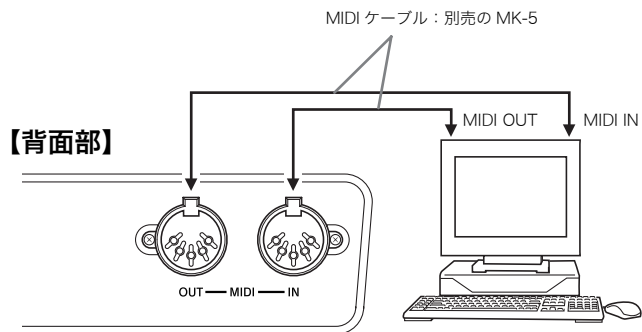
電子楽器同士、あるいは電子楽器とパソコン機器との間で情報をやり取りできるように、デジタル信号の仕様や端子の形状について定めた統一規格のことです。

メモ

- MIDIインプリメンテーションの詳細は <http://www.casio.co.jp/emi/> を参照してください。

MIDIの接続について

パソコンなどの外部機器に本機の演奏内容を録音／再生する場合は、お互いのMIDI端子同士を下図のように接続して、双方向でMIDIメッセージのやり取りができるようにします。



MIDI関連の設定について

MIDI関連設定の項目や操作については、25ページの一覧表をご参照ください。

困ったときは

現象	原因	解決方法	参照
鍵盤を押しても音が出ない。	<ol style="list-style-type: none"> VOLUMEつまみが“MIN”の位置にある。 ヘッドホンがつながっている。 ローカルコントロールの設定がオフになっている。 モードの設定が、“カシオコード”や“フィンガード”になっているときは、伴奏鍵盤で通常の鍵盤演奏ができません。 	<ol style="list-style-type: none"> VOLUMEつまみを“MAX”の方に動かす。 ヘッドホンをPHONES端子から抜く。 ローカルコントロールの設定をオンにする。 モードを“標準”に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ 7ページ ☞ 5ページ ☞ 25ページ ☞ 15ページ
ピッチがずれて聞こえる。	<ol style="list-style-type: none"> 鍵盤の調（トランスポーズ）の設定が“0”以外になっている。 音程の調整（チューニング）の設定が“0”以外になっている。 	<ol style="list-style-type: none"> 設定を“0”にする。または、電源を入れ直す。 設定を“0”にする。または、電源を入れ直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ 25ページ ☞ 25ページ
デモ演奏や録音した曲の再生を始めたが、音が出ない。	<ol style="list-style-type: none"> VOLUMEつまみが“MIN”の位置にある。 ヘッドホンがつながっている。 	<ol style="list-style-type: none"> VOLUMEつまみを“MAX”の方に動かす。 ヘッドホンをPHONES端子から抜く。 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ 7ページ ☞ 5ページ
鍵盤を押しても、外部のMIDI音源の音が出ない。	<ol style="list-style-type: none"> 本機の送信チャンネルと外部のMIDI音源のチャンネルが一致していない。 外部音源のボリュームやエクスプレッションの設定が“0”になっている。 	<ol style="list-style-type: none"> 本機と外部のMIDI音源の送信チャンネルを一致させる。 外部音源のボリュームやエクスプレッションの設定を適切な値にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ 25ページ ☞ 外部音源の取扱説明書
同じ音色で鍵盤の位置によって音質や音量が若干異なる音色がある。	<p>デジタルサンプリングという電子処理※によって発生する音域の境目で、故障ではありません。</p> <p>※ 元になっている楽器音の音域ごとの音質を再現するために、低域・中域・高域など複数の音域ごとに元の楽器音を録音し、ひとつの音色に仕上げる処理。</p>		
ボタン操作をすると、鳴っている音が一時的に途切れたり、音質が若干変わったように聞こえる。	<p>レイヤー機能、デュエット機能、内蔵曲の演奏、録音機能などを使用しているときは、複数のパートの音が同時に鳴っています。このようなときにボタンを操作すると、音色固有の内部エフェクト設定が自動的に変更されて、パートによっては左記のような現象が発生することがありますが、故障ではありません。</p>		

製品仕様

型式	PX-120
鍵盤	88鍵、ピアノ鍵盤、タッチレスポンス付き
同時発音数	最大128音
音色	11種類 <ul style="list-style-type: none"> レイヤー可（ベース音色を除く） スプリット可（低域はベース音色のみ）
エフェクト	ブリリアンス（-3～0～3）リバーブ（4種）、コーラス（4種）、アコースティックレゾナンス
メトロノーム	<ul style="list-style-type: none"> 拍子：0, 2, 3, 4, 6 テンポ範囲：20～255
デュエット	音域変更可（-1～2オクターブ）
ミュージックライブラリー	<ul style="list-style-type: none"> 曲数：60曲 曲の音量：調節可 パートのオン/オフ：L, R
自動伴奏	<ul style="list-style-type: none"> リズム数：20 テンポ範囲：20～255 コントローラー：スタート/ストップ、シンクロ/フィルイン モード：標準、カシオコード、フィンガード、フルレンジコード 伴奏の音量：調節可
録音機能	<ul style="list-style-type: none"> 方式：リアルタイム録音、再生 曲数：1曲 録音トラック数：2トラック 容量：合計約5,000音符 録音内容の保持：内蔵フラッシュメモリー
ペダル	ダンパー（別売のSP-30使用時はソフト、ソステヌートも可）
その他の機能	<ul style="list-style-type: none"> タッチセレクト：3種類、オフ トランスポーズ：±1オクターブ（-12～0～12） チューニング：A4=440.0Hz±99セント（可変） 操作のロック
MIDI	16chマルチティンバー受信
入出力端子	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドホン端子：ステレオミニジャック×2 出力インピーダンス170Ω 出力電圧5.5V（RMS）MAX ダンパーペダル端子：標準ジャック 電源端子：DC12V MIDI イン/アウト端子 ペダルコネクター
スピーカー	（12cm×6cm 楕円型）×2（出力8.0W + 8.0W）
電源	家庭用100V電源使用 ACアダプター AD-12JL使用
消費電力	12V --- 18W
サイズ	幅132.2×奥行27.8×高さ13.4cm
重量	約11.4kg
付属品	ACアダプター（AD-12JL）、ペダル（SP-3）1本、譜面立て、取扱説明書（本書）、保証書、楽譜集、安全上のご注意

- 改良のため、仕様およびデザインの一部を、予告なく変更することがあります。

【別売品のご案内】

商品名	品番
ヘッドホン	CP-16
ペダル	SP-20 SP-30※
イス	CB-5 CB-9 CB-20

商品名	品番
スタンド	CS-53P CS-65P CS-66P
MIDIケーブル	MK-5
ソフトケース	SC-700P

- 別売品はいずれも、カシオ電子楽器取扱店（全国の有名楽器店、デパートなど）で、お求めになれます。

※ CS-65PもしくはCS-66P使用時のみ

トーンリスト

音色名	プログラム チェンジ	バンクセレクト MSB	最大同時 発音数
GRAND PIANO (MODERN)	0	48	64
GRAND PIANO (CLASSIC)	0	49	64
GRAND PIANO (VARIATION)	0	50	128
ELEC PIANO 1	4	48	128
ELEC PIANO 2	5	48	64
HARPSICHORD	6	48	128
VIBRAPHONE	11	48	128
PIPE ORGAN	19	48	128
STRINGS	49	48	128
BASS 1	32	48	128
BASS 2	32	49	64

リズムリスト

NO.	リズム名
01	8 BEAT
02	PIANO BALLAD 1
03	PIANO BALLAD 2
04	EP BALLAD 1
05	EP BALLAD 2
06	BLUES BALLAD
07	JAZZ COMBO 1
08	JAZZ COMBO 2
09	RAGTIME
10	ROCK' N' ROLL
11	BOOGIE WOOGIE
12	BOSSA NOVA
13	GOSPEL
14	ARPEGGIO 1
15	ARPEGGIO 2
16	MARCH 1
17	MARCH 2
18	STRIDE PIANO
19	WALTZ 1
20	WALTZ 2

ソングリスト

NO.	曲名
01	ノクターン 作品9の2
02	幻想即興曲 作品66
03	エチュード 作品10の3 <別れの曲>
04	エチュード 作品10の5 <黒鍵>
05	エチュード 作品10の12 <革命>
06	エチュード 作品25の9 <蝶々>
07	プレリュード 作品28の7
08	ワルツ 作品64の1 <小犬のワルツ>
09	ワルツ 作品64の2
10	楽興の時 第3番
11	即興曲 作品90の2
12	軍隊行進曲 第1番 (連弾)
13	春の歌「無言歌 第5集」より
14	楽しき農夫「ユーゲント・アルバム」より
15	見知らぬ国と人々について「子供の情景」より
16	トロイメライ「子供の情景」より
17	タンブラン
18	メヌエット BWV Anh.114 「アンナ・マグダレーナ・バッハのクラヴィーア小曲集」より
19	インヴェンション 第1番 BWV 772
20	インヴェンション 第8番 BWV 779
21	インヴェンション 第13番 BWV 784
22	プレリュード 第1番 BWV 846 「平均律クラヴィーア曲集 第1巻」より
23	かっこう
24	ガボット
25	ソナチネ 作品36の1 第1楽章
26	ソナチネ 作品20の1 第1楽章
27	ソナタ K.545 第1楽章
28	ソナタ K.331 第3楽章 <トルコ行進曲>
29	ロンド K.485
30	エリーゼのために
31	トルコ行進曲
32	ソナタ 作品13 <悲愴> 第1楽章
33	ソナタ 作品13 <悲愴> 第2楽章
34	ソナタ 作品13 <悲愴> 第3楽章
35	ソナタ 作品27の2 <月光> 第1楽章
36	ラブソディ 第2番
37	ワルツ 作品39の15 (連弾)
38	愛の夢 第3番
39	花の歌
40	乙女の祈り
41	クシコス・ポスト
42	ユーモレスク 作品101の7
43	メロディー「叙情小曲集 第2集」より
44	シシリエンヌ 作品78
45	子守唄「ドリー組曲」より (連弾)
46	アラベスク 第1番
47	亜麻色の髪乙女「前奏曲集」より
48	パスピエ「ベルガマスク組曲」より
49	ジムノペディ 第1番
50	ジュ・トゥ・ヴ
51	愛の挨拶
52	エンターティナー
53	メーブル・リーフ・ラグ
54	アラベスク「25の練習曲 作品100」より
55	スティリアンヌ「25の練習曲 作品100」より
56	アヴェ・マリア「25の練習曲 作品100」より
57	帰途「25の練習曲 作品100」より
58	貴婦人の乗馬「25の練習曲 作品100」より
59	第13番「30番練習曲 作品849」より
60	第26番「30番練習曲 作品849」より

フィンガードコード一覧表

コードの 種類 (ルート)	メジャー	m (マイナー)	7 (セブンス)	m7 (マイナーセブンス)	dim7 (ディミニッシュセブンス)	M7 (ドミナントセブンス)	dim (ディミニッシュ)	m7 ^{♭5} (ドミナントセブンスフラットファイブ)
C								
C [♯] (D [♭])								
D								
(D [♯])/E [♭]								
E								
F								
F [♯] (G [♯])								
G								
(G [♯])/A [♭]								
A								
(A [♯])/B [♭]								
B								

コードの 種類 (ルート)	aug (オーギュメント)	sus4 (サスフォー)	7sus4 (セブンスサスフォー)	m add9 (マイナーアドナインズ)	mM7 (マイナードミナントセブンス)	7 ^{♭5} (セブンスフラットファイブ)	add9 (アドナインズ)
C							
C [♯] (D [♭])							
D							
(D [♯])/E [♭]							
E							
F							
F [♯] (G [♯])							
G							
(G [♯])/A [♭]							
A							
(A [♯])/B [♭]							
B							

ご使用上の注意

「安全上のご注意」と併せてお読みください

■ 設置上のご注意

本機を次のような場所に設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所、温度の高い場所。
- 極端に温度の低い場所。
- ラジオや、テレビ、ビデオ、チューナーに近い場所（これらを近くに置いた場合、本機には特に障害はありませんが、近くに置いたラジオやテレビの側に雑音や映像の乱れが起こることがあります）。

■ 本機のお手入れについて

- お手入れにベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は使わないでください。
- 鍵盤などのお手入れは柔らかな布を薄い中性洗剤液に浸し、固く絞ってお拭きください。

■ 付属品・別売品

付属品や別売品は、本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

■ ウェルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の“ウェルドライン”と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

■ 音のエチケット

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のかからない音量でお楽しみください。窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

- 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不明な点や誤りなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

保証・アフターサービスについて

保証書はよくお読みください

保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間は保証書に記載されています

修理を依頼されるときは

まず、もう一度、取扱説明書に従って正しく操作していただき、直らないときには次の処置をしてください。

● 保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノ修理相談窓口が修理をさせていただきます。

- 保証書に「持込修理」と記載されているものは、製品に保証書を添えてご持参またはご送付ください。
- 保証書に「出張修理」と記載されているものは、お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノ修理相談窓口までご連絡ください。

● 保証期間が過ぎているときは

お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノ修理相談窓口までご連絡ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

当商品は「出張修理」「持込修理」のいずれも受け付けております。修理をお急ぎの場合には、事前に最寄りのカシオテクノ修理相談窓口にご相談ください。お客様のご希望に沿った修理方法をご案内させていただきます。

あらかじめご了承ください

- 「修理のとき一部代替部品を使わせていただくこと」や「修理が困難な場合には、修理せず同等品と交換させていただきますこと」があります。また、特別注文された製品の修理では、ケースなどをカシオ純正部品と交換させていただきますことがあります。
- 修理のとき、交換した部品を再生、再利用する場合があります。修理受付時に特段のお申し出がない限り、交換した部品は弊社にて引き取らせていただきます。
- 録音機能などのデータ記憶機能付きのモデルでは、修理のとき、故障原因の解析のため、データを確保させていただきますことがあります。
- 日本国内向けの製品は海外での修理受付ができません。修理品は日本まで移動の上、日本国内のカシオテクノ修理相談窓口にご依頼ください。

アフターサービスなどについておわかりにならないときは

お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノ修理相談窓口にお問い合わせください。



This recycle mark indicates that the packaging conforms to the environmental protection legislation in Germany.

これは、梱包箱がドイツの環境保護法に適合していることを示すリサイクルマークです。

CASIO®

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

© MA0707-A Printed in China
PX120JA1A